OTTAVA f SC-C70 に関する質問事項回答

以下は、OTTAVA f SC-C70 に関する質問事項に関するパナソニックお客様ご相談センターからの回答です。回答によっては時間がかかって、一部は後先になっていますが、質問順に並び変え、若干の編集を加えています。

【1】の質問
（詳細マニュアル（TechnicsMusicApp_UserGuide_iOS）の使用について）
問題はございません。
（付属マニュアルを補完するものであれば、付属マニュアルとの繋がりを明確にする点について）
お客様の生のお声、貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。よりお客様のご満足いただけるサービス作りのご参考にさせていただきたく存じます。

【2】の質問
（読みやすい印刷物の提供について）
TechnicsMusicApp_UserGuide_iOS が、わかりづらいとご指摘をいただきありがとうございます。また、お手数をおかけいたしますこと、お詫び申し上げます。誠に恐れ入りますが、他にご提供が可能なマニュアル、印刷物がございません。何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

【3】の質問
（使用できる USB Storage の選択について）
使用できる条件は、下記となります。
・USB マスストレージのファイルシステムが FAT16/32 のもの
※NTFS や exFAT などのファイルシステムは不可
※SD カードリーダーの場合、SDXC は不可(exFAT のため)
・バスパワータイプの場合は、5V/500mA で動作するもの
※セルフパワータイプ(マスストレージに別途電源供給するもの)は OK
・その他
USB Mass Storage Class のもの ※HUB 機能などが内蔵されているものは不可
最初のドライブにインストーラーやユーティリティーを置いているようなデバイスやセキュリティーロックがかかったデバイスは不可

【4】の質問
（Tone Control の High/Mid/Low のセンター周波数について）
Low:200Hz、Mid:1kHz、High:8kHz のそれぞれの周波数で、±5dB の範囲で調整が可能です。
（Sound Setting の CD 再生のリマスターの処理について）
基本的な内部処理については、独自技術のため開示できかねますが、SC-C70 の場合には、CD の 44.1kHz を 2 倍の 88.2kHz まで帯域を拡張し、ハイレゾ音源にせまるより自然で表現力豊かなサウンドを再現しています。
（Setup 項目の個々の設定の意味について）
・DIMMER
本体ディスプレイや CD イルミネーション、電源 LED の照度の調整です。
・SLEEP
設定した時刻が経過したら、本体がスタンバイに入ります。
・PLAY TIMER
お目覚めタイマーとして、指定した開始時間に、指定したソースを再生し指定した終了時間にスタンバイに入ります。
・AUTO OFF
ON にすると、無信号無操作で 20 分後にスタンバイに入ります。
・ILLUMINATION
Mode 1　CD イルミネーションが常に光ります。
Mode 2　ソースが CD で、かつ CD が入っていたらイルミネーションが光ります。
・Beep
On にしていると、本体のタッチスイッチを押した際に、Beep 音が鳴ります。
・Standby Display
On にしていると、本体がスタンバイの状態で、ディスプレイに時計を表示します。
・Network Standby
On にしていると、本体がスタンバイの状態でも、ネットワーク接続機器用のスピーカーとして待機し、Spotify や AirPlay などをご使用のときに自動的に電源が入ります。
・Touch Switch
本体のタッチスイッチ操作の有効/無効を切り替えます。
・E Asian Character
曲名、アーティスト名などで表示される文字が意図した文字と異なる場合は表示文字を切り替えることができます。

Type 1(日本)：日本語優先で表示します。
Type 2(簡体字)：中国語(簡体)優先で表示します。
・Bluetooth
Mode 1: 通信安定性重視で Bluetooth 送信機器と接続します。
Mode 2: 音質重視で Bluetooth 送信機器と接続します。

【5】の質問
（NAS からの DSD 音源の再生プロセスについて）
2.8Mhz/5.6MHz の DSD コンテンツは LAPC 等の処理をおこなうため、内部では 88.2kHz/32bit にダウンサンプリングした後に、PCM 信号と同じ処理を行っています。

【6】の質問
（ステレオサウンドオンラインの記事におけるベルリンフィルとパナソニック/テクニクスの協業の最初の成果について）
SC-C70 では、デジタル・コンサートホールを再生することも考慮し、今回のパートナーシップで我々が得た知識を反映させたチューニングを行っています。
普段からステージやスタジオで音に接しているトーンマイスターが、生音のダイナミクスと楽器が織り成すハーモニーを、正確に伝えたいという思いを持っていることがわかりました。
そのため、チューニングのポイントとしては、主にダイナミクスとして低域～中域の音のエネルギー感、ハーモニーとして、中域～高域での音のカラフル感というポイントを中心に再調整して仕上げました。

【7】の質問
（一度 LAN ケーブルによる接続を行った後、改めて無線 LAN 接続を行うための手順について）
一度でも有線 LAN 接続をすると、取扱説明書 14 ページの「ネットワークの接続設定をはじめてするとき」の「Wi-Fi Setup」の表示はいたしません。
【補足】
お買い上げ時の状態（自動で Wi-Fi Setup が出る新品の状態）とします。
この状態（SC-C70）に有線 LAN ケーブルを接続して、そのケーブルの逆側は電源が入っているルーター、または、電源が入って動作しているハブ（スイッチングハブなど）に差した状態（有線 LAN として使用できる状態）SC-C70 の AC 電源を入れて電源を入にすると、一度でも有線 LAN 接続されたことと

なります。
（SC-C70 に有線 LAN ケーブルを差しても、その先に何も繋がっていない場合は、有線 LAN として接続されたことにはなりません）
現在、LAN ケーブルの接続を外し、電源を ON にしても「Wi-Fi Setup」が出ない状況でございますため、下記の操作で、無線 LAN 接続をおこなってください。
1.SC-C70 の電源を入れる
2.リモコンの【SETUP】を押します。
3.「Network」が表示するまで、リモコンの▲/▼を数回押し、OK を押す
4.「Network　Wi-Fi」の表示が出たら、リモコンの OK を押す
5.「Wi-Fi　Off」の表示が出たら、リモコンの▲/▼を押し、「Wi-Fi　On」を選択し、OK を押す
6.「Network　Wi-Fi」の表示に戻ります。
リモコンの＞（OK ボタンの右横）を押し、接続したい方法で無線 LAN 接続をおこなってください。

【8】の質問
（使用できる USB Storage の選択条件について）
USB Storage の選択条件につきましては、ご参考になれば幸いでございます。
なお、OPPO 社の Sonica DAC に制限がない点につきましては、貴重なご意見をいただきましたこと、御礼申し上げます。

【9】の質問
（CD 再生のリマスターについて）
貴重なご意見をいただき、重ねて御礼申し上げます。
よりお客様にご満足いただける商品づくりのご参考とさせていただきたく存じます。

【10】の質問
（DSD 音源の PCM 変換について）
貴重なご意見をいただき、重ねて御礼申し上げます。
よりお客様にご満足いただける商品づくりのご参考とさせていただきたく存じます。

【11】の質問
（「デジタル・コンサートホールを再生することも考慮」について）

SC-C70 では、例えば、タブレットのデジタル・コンサートアプリを AirPlay 機能を使って、受信するケースを考慮しております。
直接受信する機能はございません。

【12】の質問
（無線 LAN 接続を行うための手順について）
お試しいただければ幸いでございます。

【13】の質問
（192Kz あるいは 176.4KHzPCM 音源の DA 変換について）されるのでしょ
レート変換を行わずにそのまま再生いたします。

【14】の質問
関連部門へ確認したい内容がございますため、お日にち 1 週間ほどいただきたく存じます。確認が取れ次第、改めて、ご連絡をさせていただきます。

【15】の質問
キャンペーンサイトを確認するとご応募から約 1 ヶ月程度を予定との記載がございます。目安でのご案内となりますが、ご参考になれば幸いです。
●SC-C70　オリジナルオーディオボードプレゼントキャンペーンサイト
http://jp.technics.com/campaign/
※キャンペーンスケジュールのところに記載があります。
※テクニクスプレゼントキャンペーンにつきましては、私どもお客様ご相談センターには詳細な情報がございません。
お問い合わせにつきましては、サイト下部にあります、キャンペーン事務局へお問い合わせをお願いいたします。（テクニクスプレゼントキャンペーン事務局をクリックするとメールフォームが立ち上がります）
【15】のキャンペーン関連につきましては、お手数をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

【16】の質問
【14】の質問について、サウンドセッション in Osaka2017 のテクニクスブースにて、担当者から Air Play 再生の手順をお聞きいただいたとご報告をいただき、また、貴重なご意見をいただきましたこと、御礼申し上げます。